

[ 方向性 ] 2020年東京大会及びそれ以後を見据えた、スポーツによる街づくりの促進

- スタジアム・アリーナをスポーツ観戦だけでなく、地域の交流拠点に(3月24日総理発言)
- 高速無線LANと高度な映像技術を活用した高付加価値サービスの提供
- 試合の映像・データ等のビジネスへの活用、一般への展開

## 1. デジタルスタジアム

➤ 収益モデルの確立、投資資金の確保が課題

< ご意見 >

- ・Wi-Fiやデジタルサイネージの設置は当然必要であるが、これら設備を活用した収益モデルの確立が必要(広告、Wi-Fiを活用したアプリケーションなど)
- ・ファンのニーズを的確に吸い上げることが必要(アイディアソン、試行的市場投入など)
- ・地域の交流拠点となるよう魅力ある施設にすることが必要(スタジアムが同質化するなかで、全体としてファンエクスペリエンスの向上が不可欠)
- ・スタジアムのデジタル化投資のための、国の支援が必要

## 2. データ利活用

➤ 収益モデルの確立、個人情報の取扱い、データフォーマットの統一が課題

< ご意見 >

- ・多くの方がサービスに対価を支払わない傾向がある中で、収益モデルの確立が必要(物販とサービスの連動、ソリューションの提示など)
- ・個人情報の取得・分析等を円滑に行える環境が必要(ヘルスケアの分野におけるデータの利活用を行う前提として必要となるデータの蓄積、生体認証と決済の紐付けなど)
- ・アスリートのデータを一般に展開するには、データの量・質を確保する必要(データ量が不足、フォーマットが不統一)